

# 小野駅前応急仮設住宅（現地視察）

現在、23世帯が暮らしています。（できた当初は80世帯）2014年4月、市から移転要請が出されましたが、市役所と5カ月間話し合い、あと3年の延長が決められました。



おさるのお人形、'めんどくしえ おのくん'。材料は靴下です。震災で仕事がなくなったことがきっかけですが、ネット注文では3カ月以上待ちという人気者。お母さんたちが心をこめて手作りしています。

わざわざ来てくれる人がいるので、1個でも多く作ろうとがんばっています。



「震災後、2年間涙が出ませんでした。今では話ができるようになって、各地に話をしに行っています。」と自治会長さん。

「僕らの中での復興」と「被災地の方が思う復興」とは全然違うんだということを知った。その人たちが「元気になるためにはどうすればいいのか」をまだまだ追いつけなければならぬと思った。

ボランティアをしている人も楽しそうで、とても良い表情。お互いが楽しんでいた。

# 大橋仮設住宅団地（交流ボランティア）

2014年夏に運行した「いしのまき-大阪交流バス」でも活動した大橋仮設住宅団地にて、交流ボランティアをしました。



「パッチワークコーナー」おしゃべりしながらも、手は動きます。



たご焼きもしました



最後は「花は咲く」を皆で合唱しました。《マッサージコーナー》「気持ちえーわー♡」



## ボランティアの声

バスの中や、現地での交流がうれしい。

復興がまだまだという状況の中、そのことを忘れないための機会に感謝。

# 東北と大阪を繋ぐ情報紙



発行 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会  
大阪市ボランティア・市民活動センター  
住所：〒543-0021  
大阪市天王寺区東高津町12-10  
大阪市立社会福祉センター内  
Tel：06-6765-4041  
Fax：06-6765-5618

協力 大阪市各区社会福祉協議会

2014年12月25日～  
12月29日



## 里帰り&ボランティアバスを運行しました。

12月25日クリスマスの晩、大型バスにボランティアと里帰り家族が同乗し、東北へむけて出発しました。翌日、東京、いわき、郡山、仙台、石巻と里帰り家族の降車後、ボランティアは中3日、石巻で現地視察とボランティア活動を行いました。そして12月28日午後、石巻から順に里帰り家族が乗車し、大阪へ。29日早朝、帰阪しました。

里帰りバス 夜8時前から、みなさんぞくぞくと集合。

ボランティアから、里帰り家族へ手作り雑貨のプレゼント♪があり、受付の際にお渡ししました。



車内ではクリスマスソングのCDが流れ、気分が盛り上がりまします。こども達が退屈しないよう、サンタに扮したボランティアが楽しく盛り上げてくれました。

年末の渋滞が心配でしたが、車の流れはスムーズでした。安全運行の為、約2時間おきにサービスエリアでトイレ休憩。



## 里帰り&ボランティアバス参加者の声



### 里帰り家族の声

避難者の方との交流、再会があって楽しかった。

長い時間バスに乗車すること子供が耐えられるのか心配だったが、ボランティアの方々に遊んでもらってよかった。

お盆の時期だとありがたい。

こども同士の交流も楽しかったようで、また参加したいと言っていた。

もう少し日程を長くしてほしい。

長く連絡を取り合えていなかった避難者と再会できて、うれしかった。

震災以来、初めての里帰りの機会となり、本当によかった。



お郷で年越しをするので往路のみの利用、大阪に家族を呼んで年越しするので復路のみなど、必要に応じてご利用いただきました。



今回は年末運行ということもあり、たくさんの方にお申込みいただき、抽選となりました。

今回の子どもライターはそうたくん。石巻駅前撮った写真、ポーズ決まってるね♪投稿ありがとう！

## 子どもライター大募集

採用された人にはおもちゃ商品券(500円分)プレゼント

情報紙 IMONIKAI に記事を掲載してみませんか

本紙イベントの体験談、感想を募集中！

◆応募方法：Eメールまたは郵送  
名前(ふりがな)、ペンネーム、年齢、住所、電話番号を明記

①様子がわかる写真(データ)1点

②100~200字程度の文章

◆応募資格：東日本大震災により関西に避難している3~18歳(代筆可)

◆問合せ：大阪市ボランティア・市民活動センター【赤星・浜辺】

※情報紙 IMONIKAI で招待・支援を受けられたものに限ります。

## 子どもライターが行ってきたよ

里帰りバスで宮城県石巻市に住んでるおじいさんとおばあさんに会いに行きました。少しの間だけ一緒に遊べて楽しかったです。バスの中でも皆とお話したり遊んでくれたりしてとても楽しかったです。また皆と合いたいなあ



投稿No.012 ペンネーム そうた

## 方言の交差点

—東北弁と大阪弁が出会う場所—

## 「しんどい」が東北の方言ではない理由

寒くて「しんどい」季節です。

「しんどい」は関西だけでなく、東海、中部、北陸、中国、四国でも使われる方言です。「しんどい」は肉体的・精神的に辛いことを表しますが、語源は「心労」だと考えられています。「心労(しんろう)」が変化して「しんどろ」になり、これが形容詞化して「しんどい」になったという説が有力です。文献によると「しんどい」が使われ始めたのは18世紀の前半です。

このことは「しんどい」が関東や東北の方言ではないことを考え

【方言募集】 ※方言に関するご質問・ご意見、お待ちしております。  
住所：〒567-8502 大阪府茨木市西交威2-1-15 追手門学院大学  
E-mail：yukushib@otemon.ac.jp 追手門学院大学国際教養学部講師 櫛引祐希子

るうえで重要です。というのも、18世紀には大阪や京都の言葉が地理的に遠く離れた関東や東北にまで伝わるだけの力を持たなかったと考えられるからです。この頃には幕府のある江戸が文化的な中心地となり、大阪や京都は他の地域に対して以前のような影響力を失いつつあったのでしよう。

しかし、現在「しんどい」はメディアによって使用が全国的に広がりました。メディアには特定の地域の方言を共通語にしてしまう力があります。



しんどいってどういう意味？

編集後記 以前住んでいた家の裏山に、うぐいすの親子が住んでいました。冬でも小さい声でぼそぼそと鳴いています。庭の大きな寒椿が花をつけ、暖かい日がやってくると力強く歌い始めます。こどものうぐいすは元気いっぱいなのですが、とっても下手で、それ故かわいく好きでした。

川向うの山に住んでいるうぐいすは、ゆったりと優雅に鳴くのでお公家さんと勝手に名付けていました。うちのやんちゃ坊主は元気だろうか、また声が聞きたいなあ、春になると思います。

みなさんは、どんな時に春を感じますか？(あかほし)



問合せ  
申込み

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会  
大阪市ボランティア・市民活動センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10  
TEL：06-6765-4041 / FAX：06-6765-5618

Email：imonikai@osakacity-vnet.or.jp(担当：赤星・浜辺)

《利用時間》月～金曜 9：30～20：30

土曜 9：30～17：00(日曜・祝日及び年末年始休館)

☆情報紙 IMONIKAI は毎月1日発行です。

情報掲載希望の方は、毎月15日までにご連絡下さい

# 情報掲示板

お得なご招待や日々の暮らしに役立つ情報など



## 日本産業カウンセラー協会 関西支部

日本産業カウンセラー協会は、全国に2万7000人の産業カウンセラーの会員による設立53年のカウンセラーの集団です。関西支部には3200人の産業カウンセラーが所属しています。各地域の官公庁・企業・教育機関などで多くの産業カウンセラーが「こころのケア」活動を行っています。特に関西では、阪神・淡路大震災などの災害・事故において継続的に被災者支援を行ってきた経緯と実績があります。今回の東日本大震災でも、発生直後から登録ボランティアにより、さまざまな支援を行っています。

### 東日本大震災「こころのケア」ボランティア支援活動

- 被災者ご家族向け「訪問カウンセリング」
- 関西圏に避難・転居された被災者ご家族を対象に、産業カウンセラーがご自宅などを訪問してお話をうかがいます。相談は無料です。
  - これから ずっと あなたとともに こころの悩み ぐらしの悩み 気軽にご相談を
  - 「よく眠れない」「なんとなく気がふさぐ」「慣れない土地で話し相手がない」「将来に不安がある」など、ひとりで悩まず、どんなことでも相談ください。
- 相談された方のプライバシーは固く守られますので、安心してご相談ください。



一般社団法人 日本産業カウンセラー協会関西支部  
〒541-0053 大阪市中央区本町1-4-8 エスリードビル本町8階  
TEL: 06-4963-2357(担当:矢野) E-mail: jimukyoku-cho@jica-kansai.jp

### ご招待

#### 生誕150年記念 せいほう 竹内栖鳳展

近代日本を代表する画家・竹内栖鳳(せいほう)。伝統的な日本絵画において、数多くの流派の画技を習得した後、明治33年に渡欧します。ヨーロッパ芸術の技法を巧みに取り入れ、近代的な日本画の創出に取り組みました。



《絵になる最初》  
1913年  
京都市美術館蔵

生誕150年を記念した本展覧会では、113年ぶりの公開となる作品をはじめ、名品・初公開作品や貴重な資料など約130展を展示、栖鳳の多様な表現の世界を見ることができます。

会期: 2月7日(土)~3月29日(日)  
10:00~17:00 (入館は閉館30分前まで)

休館日: 毎週月曜日

場所: 姫路市立美術館  
(JR「姫路」駅下車→神姫バス(乗車約6分)  
「姫山公園南、医療センター、美術館前」停留所下車すぐ)

ご招待: 3組6人(抽選)

申込み: 大阪市ボランティア・市民活動センター(担当:赤星・浜辺)  
(電話・メールにて、全員の名前・住所・TELを添えて)

締切: 2月28日(土)

※3月4日頃のチケット発送をもってかえさせていただきます。

### ご招待

#### 魔女の秘密展

##### ベールに包まれた美と異端の真実

ヨーロッパでは古くから「魔女」の存在が信じられてきました。悪魔と契約を交わし、超自然的な力で人々に災いをもたらす者…。人々を脅かしたその存在は、15世紀から17世紀の『魔女狩り』によって迫害を受けます。その発端は？どのような人が魔女とされ、その対象は女性だけだったのか…?

魔女の歴史と真実の本展覧会では、ヨーロッパ30か所以上の美術館・博物館の貴重な資料、道具など約100点を公開します。

会期: 3月7日(土)~5月10日(日)  
平日 10:00~17:00  
土・日・祝 10:00~18:00  
(入館は閉館30分前まで)



場所: 大阪文化館・天保山(海遊館となり)  
(地下鉄中央線「大阪港」駅 1番・2番出口より徒歩約5分)

ご招待: 5組10人(抽選)

申込み: 大阪市ボランティア・市民活動センター(担当:赤星・浜辺)  
(電話・メールにて、全員の名前・住所・TELを添えて)

締切: 2月28日(土)

※3月4日頃のチケット発送をもってかえさせていただきます。



シュパンゲンベルク・グスタフ＝アドルフ  
《ワルブルギスの夜》  
1862年 ハンブルク市立美術館(ドイツ)  
©Hamburger Kunsthalle / bpk Photo: Elke Walford

### ご招待

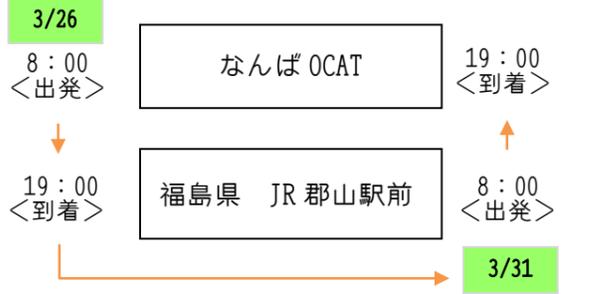
#### 大阪と福島を繋ぐ 福島県行き「里帰りバス」



大阪府生活協同組合連合会が、3月に福島県行きの「里帰りバス」を運行します。片道みの利用もできます。またバスにはボランティアも同乗します。どうぞご利用ください。

日程: 3月26日(木)~3月31日(火)

#### - 行程 -



※片道みの利用も可能です。  
※到着時間は目安です。交通事情により前後する場合があります。  
※発着地等の詳細はご利用者に後日ご案内します。

定員: 30人  
※応募者多数の場合は抽選とします。その際には大阪市内に避難されている方を優先します。

対象: 東日本大震災により福島県から関西に避難中の方  
※15歳以下の方は保護者同伴でご利用をお願いします。

参加費: 無料  
※バス発着地点までの交通費、道中での飲食費は各自で負担ください。

申込み: 大阪府生活協同組合連合会(電話にて)  
TEL: 06-6762-2357  
受付時間 平日の午前10時~午後5時

締切: 2月27日(金)  
※抽選の結果は、3月2日~3月6日の期間でご連絡します。



### 交流会

#### 避難ママのお茶べり会

避難ママのお茶べり会主催の交流会が、毎月堺市で開催されています。お子さんは大きなお部屋で保育スタッフと遊びます。お母さん方は横のお部屋でおしゃべりです。  
途中参加・途中退室もちろんOK!初めての方もぜひご参加ください♪

日時  
2月28日(土)  
3月28日(土)  
両日とも 13:00~17:00

3月28日は、関西大学の学生が保育ボランティアをします。前回は、こどもが興味を持つ遊びを用意してくれました。

- 【対象】 東日本大震災で関西に避難されてきた母親とお子さん
- 【参加費】 無料
- 【場所】 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム  
(南海高野線「堺東」駅 5分)
- 【申込み】 避難ママのお茶べり会(吉岡)  
✉ hinan.event@gmail.com  
下記必要事項を記入の上、メールにて。  
件名「●月●日交流会申し込み」  
(1)名前 (2)電話番号  
(3)避難元→避難先(例:千葉県浦安市→大阪市)  
(4)託児が必要なお子さんの名前と年齢

#### 離れ離れの家族の絆

様々な事情で、家族がバラバラに暮らさなくてはなくなることがあります。家族の絆をつなぐには、互いにどのように接したらよいでしょうか?

一般に単身赴任では、経済的負担、父親不在による妻子の不安、家族と離れている父親のストレスなどの問題があるとされてきました。しかしある研究では、このような問題は起こりやすいけれど、起こるのではないかと懸念が先にあって他の理由で起きていることも離れ離れ生活のためだと考えてしまう傾向や却って家族の絆が強まる場合もあると報告されています。

- できるだけ連絡を取ってお互いの状態をリアルタイムで知っておきましょう。
- それぞれの家族の不安や問題を受け止めあいましょう。
- ストレスのはけ口で感情的なやり取りにならないよう心がけましょう。

桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授 郭麗月